

【休憩施設(SA/PA)の概要】

高速道路の休憩施設(以下、SAPA)の設計基準によると、SAは給油、運転中のトイレや食事といった休憩(疲労回復)するための場所として、50km間隔で設置されている。また、PAは主にドライバーが休憩可能な駐車場とトイレ、その他にコンビニ等の売店が備え付けられており、15km間隔で設置されている。

各高速道路会社は、近年、休憩施設の商業化等新たな展開を進め、従来の運転者の休憩や自動車の給油を目的とした休憩施設ではなく、利用者のサービス向上のため、休憩施設利用者の多様化やニーズの多様化にも対応した休憩施設を整備してきており、休憩施設利用者も増加している。

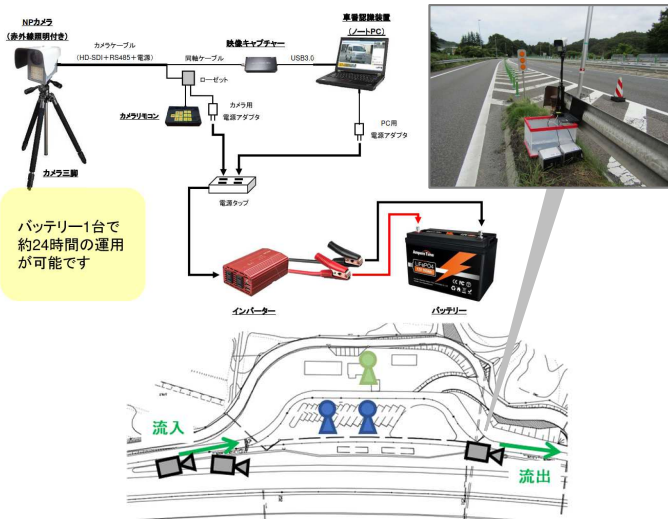
【休憩施設利用実態調査について】

高速道路のSAPAの役割の多様化、老朽化への対応のため、今後の維持管理及び改善計画を作成する上での基礎データとして、利用実態を把握するために『立寄交通量・駐車時間調査』『駐車マス利用調査』『商業施設・トイレ施設利用者調査』『利用者アンケート調査』等、経年で各種調査を実施している。

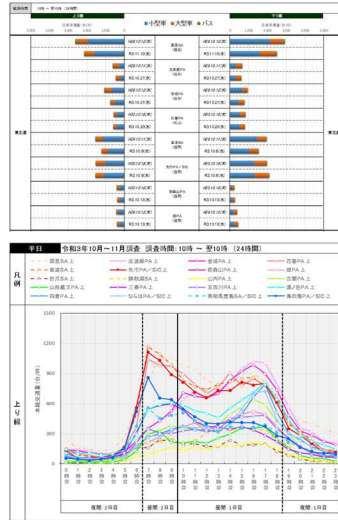
立寄交通量・駐車時間調査(ナンバープレート調査)

休憩施設の流入流出部において、車両のナンバープレートをカメラで撮影して、ナンバープレートのすべての情報をシステムで自動認識し、データを取得します。

＜立寄り調査実施イメージ＞



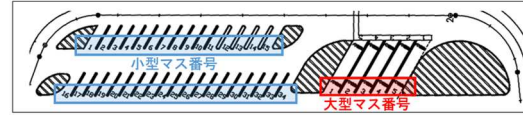
＜アウトプットイメージ＞



駐車マス利用調査

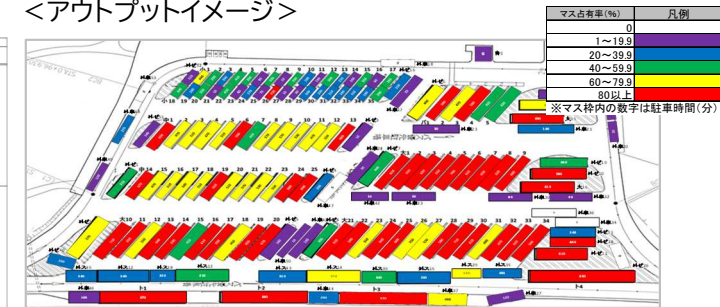
駐車マス利用実態について示す評価項目に基づき、対象休憩施設の上下別・平休別、小型車・大型車の駐車マス単位での利用特性や駐車マスの過不足状況等の把握を行います。

＜駐車マス調査実施イメージ＞



※取得画像データのサンプル

＜アウトプットイメージ＞



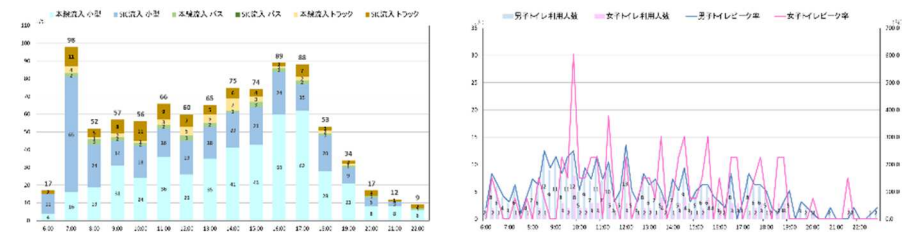
商業施設・トイレ施設 利用者調査

休憩施設内の商業施設やトイレ施設の利用実態調査を行い、利用者の属性や利用率等の把握を行います。

＜施設調査実施イメージ＞



＜アウトプットイメージ＞



交通量・通行量

高速道路の交通量を車種別に、休憩施設の利用者を性別や年代などの属性別にカウントし、利用実態を把握します。



施設立寄率

高速道路本線交通量と施設への立寄交通量をカウントすることで、施設に立ち寄る割合を把握します。



駐車時間

施設に立寄った車がどのくらいの時間滞在したのかを、ナンバープレート調査をすることで把握します。



駐車状況

駐車場のどの位置に駐車が多かったか、その時間帯に何台駐車していたかを把握します。



逆走防止

逆走防止のため、実態把握やアンケート調査を実施し、今後の防止策に活用します。



お手洗い

トイレの設置数と利用数をカウントし、利用状況を把握します。滞留状況も観測できます。



車籍地

ナンバープレート調査により、車籍地情報を取得することで、移動範囲や商圈を把握します。



EV車利用状況

EV車(電気自動車)の駐車台数や急速充電スタンドの利用状況を把握します。



標識視認性

標識や案内・誘導看板などの視認性をアンケート調査や写真撮影により把握します。



迂回路

通行止めに伴う迂回路検討のために、交通実態調査を実施します。交差点飽和度も算出できます。



バリアフリー

エレベーター、迂回路の使用人数をカウントし、使用実態を把握します。



訪日外国人

休憩施設において、訪日外国人観光バスの利用人数を把握します。外国語対応調査員による、ヒアリングも実施します。



施設内挙動

高所からのビデオ撮影、車載カメラによる撮影などによって、車両の挙動や施設利用状況の映像を記録します。



渋滞関連

渋滞状況把握のためにIC付近の滞留・渋滞長調査や、渋滞緩和キャンペーンのチラシ配布を休憩施設にて実施します。



旅行速度

走行調査や、GPS機器を使用することにより、旅行速度を把握します。



顧客満足度

お客さまの施設やサービスへの満足度を、Webアンケートやヒアリングアンケートで把握します。



実験補助

運転を伴う走行実験DS実験などの被験者(モニター)や調査員の募集を行い、運営をサポートします。
※派遣業ではありません



集計補助

既に取得済みのデータがある場合、そのデータ整理から集計、グラフ作成等までをサポートします。



調査手法



カウント



ナンバープレート



ビデオ撮影



写真撮影



目視計測



現地アンケート



Webアンケート



人員補助